

おわりに——この本を読んでくれてありがとう

この本を手にとってくれて、そしてこの本を読んでくれて、ありがとう。

ただ、読んでくれたあなたが、「悪質商法に引っかからないためにはどうしたらいいか」とか、「安全な食品を食べるためにはどうすればいいのか」とかいった疑問に対する明確な解答が書いてないと、ストレスを感じておられるのではないかと心配しています。でも、消費生活にかかわる様々な問題を解決する唯一の間違いない方法など、実はないと私たちは考えています。この本を作る際には、3人の執筆者が喧々諤々(けんけんがくがく)の議論をしました。ほとんどの部分で、消費者問題やそれに対する法や社会の関わり方について、執筆者3人の考え方は一致しています。ただ、いくつかの点では意見が異なっていて、1つの見解にまとめることができそうもない部分も実は残っています。改訂版の編集でも、その議論は続いています。最終的には、執筆者のそれぞれの考え方をお互いに尊重することで、この本はできました、改訂することができました。

例えば、消費者被害は企業によってもたらされるのは事実ですが、ではすべての企業が問題ある事業を行っているのかと言えば、決してそうではありません。企業が、消費者の生活を豊かにすることを意図して市場に出す商品によって、私たち消費者は多様で納得がいく選択の自由を享受することができます。一方、消費者による選択が、悪質な企業を市場から排除することにつながるためには、多様な選択基準を消費者が自由に行使することが不可欠です。それは、一人の消費者にとって簡単なことではありません。ですから、まずは誰がその選択について「配慮」していて、何がその選択に(不当に?)「介入」しているのかを考えてみる必要があります。私たちは、それを考えるためのヒントを、この本にたくさん書いたつもりです。それを、自らの消費生活にどのようにかすのかは、皆さんそれぞれの判断に委ねたいと思います。ただ、一人の消費者の行動が積み重なることが、消費者問題を解決することにつながること

を忘れないで下さい。そして、それがあなた自身が安心・安全で納得できる消費生活を送ることにつながります。読むだけでなく、自分で考えて、そしてそのうちの何かを自分の消費生活に反映させる努力を、どうぞよろしくお願い致します。

この本を作るにあたっては、法律文化社の小西英央さんにお世話になりました。彼の献身的な励ましなしにこの本はできませんでした。また、改訂をするにあたっては、同社の八木達也さんにお世話になりました。記して心から感謝いたします。